

# **ISFJ** *Inter-university Seminar for the Future of Japan*

## **ISFJ2025中間発表会 活動報告書**

文責:広報部 川上沙弥

### **【日時】**

2025年9月21日(日)

### **【会場】**

zoom

### **【参加】**

26大学51研究会115チーム

### **【概要】**

中間発表会は、各研究会が分科会ごとに分かれてそれぞれの研究成果を発表し、専門家の方々からご意見をいただくと共に学生間の意見交流も行う催しである。12/13(土)、12/14(日)に開催される政策フォーラムに向か、完成度の高い論文を仕上げていくことを目的としている。発表後には、発表を聞いていた研究会による質問や意見シートの提出、専門家の方によるコンサルティングタイム等、第三者視点からの意見をもらえる時間を設け、最終論文の執筆に向けて疑問点や不安点を解消する機会を設けた。

### **【企画内容】**

各研究会の皆様による20分間の発表を踏まえ、聞き手である残りの研究会の皆様には質疑応答と意見シートを記入する時間を10分間設けた。

研究会1班の発表が終了するごとに、20分間コメントーターの方と個別に相談するコンサルティングタイムを設け、参加者の皆様が抱えている疑問にお答えいただき、論文や発表の向上に向けたアドバイスをいただいた。

なおコメントーターの皆様には前もって、参加者の皆様に事前に提出いただいた中間論文を読んでいただいており、論文中の論理破綻、事実誤認などの基本構成および発表の不備、論文と発表間の齟齬の有無について確認していただき、忌憚のないご指摘をお願いした。

また、会の最後にはコメントーターの皆様から総評をいただき、これをもって閉会とした。

- 審査員の形式が3パターン
  - ・当日コメントーター2人
  - ・当日コメントーター1人 + 事前に読んでコメント

### **当日コメントーターとして協力してくれる方が少ないことが課題である**

### **【責任者総評】**

今回の中間発表会では事前審査員の方々とコメントーターの方々から専門的なご意見をいただくとともに、同じ分科会に所属する他大学の研究会との意見交換や質疑応答を通じて、多くの視点からの考えに触れることができたと思います。中間発表会での学びをもとに最終論文執筆の執筆に注力していただければと思います。

今後は政策フォーラムにて、皆様がより良い環境で素晴らしい政策提言を発表できるよう運営委員一同、精一杯尽力して参ります。

### 来年度以降取り入れるべきこと

- ・事前審査員の方々の負担を考慮し、最適な担当論文数を検討する
  - ・当日の欠席に備え各分科会にコメンテーターを2名割り当てられるようにする。
  - ・リハーサルの時期を早め、より円滑な運営を行えるようにする。
  - ・参加者が多いので出席確認やブレイクアウトルームの割り当て方法を再度検討する。
    - ・ブレイクアウトルームは事前に割り当てる
  - ・参加者が困惑しないよう資料はできるだけまとめて送付する。
- 
- ・肩書きや御名前を間違えてしまうことがあった。これらは大変失礼なことでもう決してはならないことであり、より一層確認作業に気を付ける
  - ・メールの送付の際に返信確認を怠っていたため、資料の送付が正しくなされていないことがあった